

東京都・TVAC・アクションプラン推進会議幹事団体 合同視察調査 報告概要

日時 平成30年7月18日(水)～20日(金)

訪問先 <岡山県>

岡山県庁／岡山県社会福祉協議会／おかやま災害支援ネットワーク
岡山市北区災害ボランティアセンター／岡山市東区災害ボランティアセンター
倉敷市災害ボランティアセンター／倉敷市立二万小学校(避難所)

<広島県>

平成30年7月豪雨災害支援ひろしまネットワーク会議
くれ災害ボランティアセンター／三原市立沼田西小学校(避難所)

<愛媛県>

愛媛県社会福祉協議会／愛媛県生活協同組合連合会／宇和島市災害ボランティアセンター
宇和島市吉田公民館／西予市立野村小学校(避難所)

参加者 東京都生活文化局都民生活部地域活動推進課 小林、原田
東京災害ボランティアネットワーク 福田
東京都生活協同組合連合会 松本
国際協力NGOセンター(JANIC) 伊藤
東京ボランティア・市民活動センター 長谷部、加納

<7月18日(1日目)>

- 岡山市北区災害ボランティアセンター
・区役所近くの大供公園の受付場所を訪問後、北区役所内に設置された災害VC本部を訪問。
- 岡山市東区災害ボランティアセンター
・上道公民館に設置された災害VC本部を訪問。後、車中から東区の主な浸水エリアである南古都地域を視察した。
- 岡山県庁
・ボランティア・NPOの県行政側の窓口である岡山県県民生活部県民生活交通課を訪問。発災後の県域の動きについて経過と現状をヒアリングした。
- 岡山県社会福祉協議会
・社協常務理事及び地域福祉部長を訪問。発災後の県社協と県内の市町社協の動きについて経過と現状をヒアリングした。
- 平成30年7月豪雨災害支援ひろしまネットワーク会議(第3回)
・ひろしまNPOセンター及びJVOADが企画・運営する上記会議に出席。初めて広島県東部(三原市)にて開催された。主に広島県東部で活動している団体の情報共有が行われた。

【1日目の所感】

- ・岡山市は床上、床下件数をみると小さな被害ではないが、岡山市全体で見ると、局所的な被害が点在している印象が強い。なお、東区は市内中心地から車で30分あり、浸水によるひと目に分かる被害である一方、北区の中心地では目に見える被害はあまりなかった。
- ・岡山県社協では、職員を市町社協に常駐させるなど市町社協の状況を把握しようとしている姿勢が伺えた。
- ・県庁、県社協、おかやまNPOセンターは連携が非常に取れているように見え、役割分担をしながら県域での取組みにチャレンジしていた。
- ・この日は、広島の被災した現場は見る事が出来なかった。ネットワーク会議には支援活動をしている団体が15団体ほど出席していた。三原市だけでなく、福山市や尾道市で活動している団体も出席していた。共有された情報は主に避難所の状況や取組みについての話が多く出ていた。目の前の支援活動に手一杯で具体的な連携・調整ができる状況ではなかったが、東部で初めて行われた会議として顔合わせの場となっていた。ただし、広島

県庁・県社協、三原市役所・市社協が出席しておらず、また、出席していた団体の多くが外部団体であるなど、会議のあり方についても、もどかしさも感じた。

<7月19日(2日目)>

○倉敷市災害ボランティアセンター

- ・倉敷市社協の常務理事／事務局長と課長と支援に入っているピースポート災害ボランティアセンター(PBV)のスタッフを訪問。発災後の倉敷市社協の動きについて経過と現状をヒアリングした。
- ・倉敷市災害ボランティアセンター服部地区のサテライト(準備中)を訪問。徒歩で服部地区の被害状況を視察。真備町菌・川辺地区サテライト周辺を車中及び徒歩で視察。

○倉敷市立二万小学校(避難所)

- ・主に市内真備町の住民が避難している二万地区の避難所の運営支援を行っているPBVのスタッフ、都庁スタッフ(行政応援派遣職員)及び避難者から避難所の現状についてヒアリングを行った。

○くれ災害ボランティアセンター

- ・呉市社協のスタッフを訪問。発災後の呉市社協や市内関係団体及び支援に入った支援団体(静岡県、静岡県社協、静岡県V協など)の動きについて経過と現状をヒアリングした。

○三原市立沼田西小学校(避難所)

- ・ADRA Japanが支援している小規模避難所にてその地区の町会会長と三原市からの派遣職員を訪問。発災当初の沼田西地区の様子、現在の避難所の状況について経過と現状をヒアリングした。

○おかやま災害支援ネットワーク

- ・おかやまNPOセンター、岡山県社協、岡山県が三者で連携して運営している上記ネットワーク会議に出席。県内の各市町災害ボランティアセンターの現状、倉敷市を中心とした避難所の現状を共有。70人程度が出席していた(団体数は不明)。



【2日目の所感】

- ・倉敷市災害ボランティアセンターは山陽道の玉島インター近くの学校施設の体育館及びグラウンドに設置されアクセスは非常に良い(被害の大きい真備町に入る入口でもある)。体育館内は冷房もきき、広い敷地、多くのバスが配備されており、足りないとはいえ、多くのスタッフが関わっている様子が伺えた。常務理事は疲れている様子だったが、支援PやPBVスタッフを信頼しており、外部支援を積極的に受入れていた。
- ・報道でも多く取り上げられている真備町は地域一帯が浸水被害にあっている様子が伺えた。多くの被災者が家財を道路に出していた。また、道路に出された家財を自衛隊が重機を使って集積場に運ぶ様子が多く見られた。コンビニやスーパーが再開されており、被災者が被災した家の2階で生活している様子も伺えた。
- ・二万小学校では冷房、段ボールベッド、食事をする場所が設置されていた。避難所運営には、地元のまちづくり協議会、DWAT、東京都から2名、福岡市から10名以上、姫路市から数名、PBVが関わっていた。避難している高齢女性に声をかけたところ、気になっていること(自宅の植木のこと等)を堰が切れたように話していた。
- ・くれ災害ボランティアセンターでは、今回の災害を機に(被災していない地域が被災した地域を応援するなど)市内の地域住民のつながりを作り、今後の呉市の街づくりについて長期的な視野を持って支援活動にチャレンジしている姿は頼もしく感じられた。一方、呉市内では被害が点在し、さらに通行止めやそれに伴う渋滞、また断水などで支援のしづらさが伺えた。スタッフにも疲労の色が見えた。
- ・沼田西小は、三原の中心地から離れた竹原市寄りの沼田川流域の氾濫によって被災した地域にある避難所。避難所の環境はひと目みて、冷房、段ボールベッド、食事をする場所、掲示板の配置など工夫が感じられた。自治会長が避難所の責任者をしており、避難所を利用していない地域の住民(被災はしており、親戚宅で避難生活をしている)などが運営しており、派遣職員は三原市の職員1名が常駐しているのみだった。上記体制から自治組織がしっかりしていることは伺えるが、今後、住民にも疲れが出てくるのが想定され、支援が少なくみえたことが気になった。
- ・おかやま災害支援ネットワーク会議では冒頭に県職員から様々な県の施策について情報提供があった(県の補正予算と金額に関する資料説明も)。

- ・県社協から県内各市町社協の現状について報告があった。被害は岡山市、総社市、倉敷市に集中しているが、他市町に被害がないわけではなく状況を把握するのに苦慮している様子が伺えた。
- ・おかやま NPO センターから倉敷市を中心とした避難所の状況について報告があった。指定避難所だけでなく自主避難所の把握にも努めている様子が伺えた。



<7月20日（3日目）>

○愛媛県社会福祉協議会

- ・愛媛県社協地域福祉部地域福祉課スタッフを訪問。発災後の県社協と県内の市町社協の動きについて経過と現状をヒアリングした。

○宇和島市災害ボランティアセンター

- ・宇和島市社協職員ならびに支援Pとして支援に入っている大分県内の社協職員を訪問。宇和島市内の被害状況ならびに市社協の動きについてヒアリングした。

○宇和島市吉田公民館（避難所）及び周辺地域

- ・宇和島市公民館スタッフ（宇和島市職員）ならびに住みリーダーを訪問。避難所の現状を聞くとともに避難所運営や家屋の泥出し作業に関わる相談を受けた。

○西予市立野村小学校（避難所）

- ・野村小学校（避難所）に支援に入っているシャンティ国際ボランティア会（SVA）が実施しているお茶会に参加。

○愛媛県生活協同組合連合会

- ・愛媛県生活協同組合連合会の専務理事を訪問。愛媛県内の生協や組合員の被害状況及び支援状況をヒアリング。



【3日目の所感】

- ・愛媛県社協内に県災害ボランティアセンターが設置されており、事務室内の体制図からは県社協の職員が市町社協に常駐しており、市町社協の状況を積極的に把握しようとしている様子は伺えたが、一方で、県全体として外部の支援団体が少ないように感じられた。
- ・宇和島市では断水のため泥出し作業が難航している。また、被害の大きい奥南（おくな）地域と玉津地域など被害状況が十分に把握できていない地域がある。
- ・吉田公民館周辺は断水が続いており、泥出し作業は捗っていない。また、外に出している家財の量が明らかに少なかった。道路すら土埃が舞う状況で衛生状況にも不安が感じられた。吉田公民館には給水施設や自衛隊の風呂などがあり、地域の支援拠点となっていた。
- ・吉田公民館の2階ホールが避難所になっており、冷房はあるが、段ボールベッドが使用されておらず、食事をするところと寝る場所が分かれていない、十分な間仕切りも設置されておらず、避難所環境は厳しいように感じられた。公民館の避難所担当者（市職員）は避難所環境の改善の意思は感じられるが、方法がわからず、一見の我々にも関わらず、助言を求める場面も多くあった。市職員の紹介で避難所リーダー（女性2名）とも話をしたが、発災当初の過酷な避難所の状況や子どもたちへの心配ごと、泥出しの手順・方法、在宅避難者への心配、自身の疲労など多岐にわたり、現状の訴えがあった。
- ・吉田公民館には応援の行政職員（愛媛県ほか数名）が派遣されていた。
- ・吉田公民館にプラン・インターナショナルが熊本の支援団体とともにマットを届けていた。
- ・西予市の野村小学校では冷房、段ボールベッド、食事をするところが設置されていた。避難所運営には熊本市が応援に入っていた。また、県看護協会、えひめ311（東日本の避難当事者団体）、SVA、PLAN が支援に入っていることが伺えた。前日に

3つの避難所が統合された状況もあり、避難所内にめいっぱい避難者がいた。

- ・野村小学校では、SVAが20日に初めて避難所内でサロンを実施しており、避難者数名と地域の寺族婦人会の方数名がボランティアとして参加していた。
- ・西予市内から大洲市内に移動する道中、通行止めで迂回することになった。偶然、被害の大きな地域などを見かけることになったが、被災した家屋でもボランティアの姿を見かけることはなく、農協の職員の姿を見かけた程度だった。住民自身が片付けをしている様子が伺えた。被害が点在しており、完全な状況把握には時間がかかっていることが想像される。
- ・愛媛県生協連の話では、愛媛県内にあるコープえひめの13店舗は全て被害なし。配達では道路事情

は良くなりつつあるが、冷蔵庫がないため返品される状況もあるとのこと。

- ・先週末（14日～16日）には、コープえひめから50名、その他生協から30名の計80名の組合員が県内の災害ボランティアセンターで支援活動を実施。今週末（21日、22日）も同程度の体制で支援を実施する予定。
- ・一方、岡山や広島被害が大きいこともあり、また、店舗が被災したわけではないこともあり、愛媛県生協連から日生協への支援要請は行っていないとのこと。
- ・災害ボランティア活動の啓発について、大学生協や店舗でポスターを掲示する方法を伝えたところ、社協と連携して実施することに前向きな姿勢が感じられた。

☆ 3県を視察して――――

岡山県は岡山駅・新倉敷駅など新幹線からのアクセスもよく外部支援を受け入れる姿勢が感じられた。今後は岡山より東から支援が入ってくる仕組みも整備されつつあるように感じた。一方、広島県では被害が点在（坂町、呉市、三原市等）しており、さらの一つ一つの被害が思いのほか大きい行政でも全体状況を把握しきれていない様子が伺えた。また、道路事情が悪く、アクセスもいいとは言えない。そのため、外部支援が入りにくい状況が見受けられた。愛媛県は断水地域も多く復旧に戸惑っている様子が伺えた。通行止めも多く、自衛隊も道路啓開に力を注いでおり（流木を積んだトラックが見られた）、復旧にまだ時間がかかることが想定される。また、広島と同様、道路事情が悪く、アクセスもいいとは言えない。愛媛から近い九州や他の四国内の県も被災している地域があり、今後も十分な支援体制を望めない可能性が高い。

作成者：東京都生活文化局、東京災害ボランティアネットワーク、東京都生活協同組合連合会、JANIC、東京ボランティア・市民活動センター

